

露國饑饉救濟金

募集

日本の民衆に懇ふ

饑饉・饑饉を聞いただけでも身ぶるひがする。この恐ろしい饑饉が、しかも、大饑饉が我々の隣りの露國を襲つて居るのである。過去七ヶ年の非生産的な戦争の爲めに氣力を失ひ、壯者を失ひ、農具を失ひ、家畜を逐つて居るのに近い程失はしめられた。續いて露國の食糧の三分の一を生産するウオルガ地方が昨年は大旱魃に見舞われた。其處へもつて来て列國は經濟的封鎖によつてロシアを困らせた爲め饑饉の烈害を助勢した。そればかりでなく外國の資金や、武器によつて後援されて居た反革命軍の爲めに重要鐵道や鐵橋は破壊されて了つたのでなほ一層饑饉の被害は甚しくなつた。饑饉の如何に甚しいかは親の屍を子が食ひ、また餓死するのを見るにしのびずして親が自分の子供を河の中に投げ込むといふことでもその悲惨な程度も察せられる。處へ疫病が相次いで起つてその爲めに斃れる者も數しれなく、幾千萬の民衆が餓えてたゞ死を待つより外ないといふ有様は、我等の到底聞くに堪へないことではなからう。

我等は昔つて東北六縣の饑饉に又最近には支那の饑饉に同胞の爲めに言つて起つたではないか。諸君よ、諸君には赤い血が流れて居る。その當時も現在も尚赤い血が流れて居る。我等に赤い血が流れて居る限り我等の同胞が被害で屍を道にさらす時さうして見過ごすことが出来やう。世界の労働者は聲を合して同胞の爲めに其の救済を絶叫し幾日分かの食糧を割つてさへ送つて居るではないか。我等も手にさうしやではないか。一週間のうち二食や三食を減してもそれが爲めに生存には差支へない。まして裝飾の爲めの美麗な着物や指輪や寶石などはなくてもよいのであるから、其の幾部分かを破らすことは誰にも出来ることである。人の餓えて死に類してゐる時一椀の水一ぱいの飯は持ちあはせて置れば誰れでも出さずには居られないではないか。それは見るに堪えられないからである。それが人間的なのだ。

我が國で最初ロシアの饑饉救済が叫ばれたのは、昨年十二月三十六個の思想團體労働團體に依つて「シムム」が次いで望月氏によつて展覽會が催され、又小数の女士に依つて叫ばれもしたが、〇〇〇壓迫によつてその効果もたたらすことが出来なかつた。然し最近大森の前衛社の企てが社會に大なる反響を見るに至つたことは甚だ喜ばしいことである更に又「熱風」も七月號で絶叫し、晝寝して居たところの婦人團體迄が餓死に類して居るロシアの同胞を救済せよと絶叫し出したことは遅遅きながら決して無意味に終りはしないであらう。十錢二十錢の少額でも構はないが出来ただけ多くの贈はり物を飢えたるロシアの同胞の爲めに送るやうに、ここに諸君に懇ふる次第である。

大正十一年七月

尙書附金は左記の中の何れへでも郵便利のさるへ御送り下さる様御願ひ致しす。

東京市小石川區宮下町六十九番地

シムム社

振替東京五〇二五三三番

東京府下大森新井宿

前衛社

振替東京五〇四七七番

東京市日本橋區平山町加山

露國饑饉救濟婦人有志會

振替東京二二三九六番